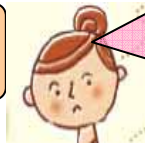


がん検診はあなたへの最高の贈り物です

昨年市の乳がん検診を受診され、がんが見つかった、越前市在住の山口さん(40歳代本名)に、がん検診を受けた思いを語っていただきました。(聞き手:健康増進課 保健師)



Q、検診のことは知っていた？



知っていました。でも、「自分は乳がんとは無縁だ、私は絶対にがんになるものか」と思っていたこともあり、気が進みませんでした。



Q、検診を受けたきっかけは？



市のがん検診の節目検診で、今年無料だったのもあって、背中を押されて受けたのがきっかけです。



Q、がんと判って思ったことは？



検診の先生に言われ、自分で乳房を触ってみるとしこりがはっきり判りました。がん細胞が1年間で1mm大きくなると聞いて、自分は15～16年も放っておいたのかと怖くなりました。もっと早く自己触診をしていればよかったのに…。という気持ちでした。



Q、手術して思ったことは？



病室には50代の年代でがんと診断を受けた方が数人いらっしゃいました。がんは自分たちのような働き盛りの年代にも発生することをわかってもらいたい。現にがんと宣告されたとき、事実から背を向けずにがんを受け入れることはとても大変でした。子供などのことを考えると今後のことへの不安もあります。だから尚更、自分の経験を伝えることで、少しでも多くの女性が乳がん検診を受けていただきたいと思っています。



Q、ぜひみなさんに伝えたいことはありますか？



女性には是非、乳房の自己触診の重要性を伝えたい。まず、自分で触る習慣をつけることを勧めたいです。そして、乳がん検診を受けてもらいたいです。



山口さんは、ご自分の体験を通して、**がんは働き盛りの年代にも発生すること**、そして、**自分の健康を守るということは家族を守ること**だとおっしゃっていました。今回は乳がんの体験でしたが、他のがんも早期に発見できた場合は、ほとんどが治るようになってきました。今回のこの山口さんの貴重な経験を是非大切な家族の方にも伝えてほしいと思います。そして、がん検診を受けてほしいと思います。

